

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.7.25 No.111 連絡先 FAX 042-555-1911



猛暑の中 第28回 座り込み行動

7月17日は、第3日曜日の座り込み行動が猛暑の中おこなわれました。この日は、和歌山県平和委員会から5名の参加がありました。東京平和委員会は事務局長と代表理事会わせて4名の参加です。AALA（アジア・アフリカ・ラテンアメリカ）委員会、日野9条からも参加がありました。

地元福生から、シソジュースなど冷たい飲み物も出され、暑さを吹き飛ばして元気に交流集会が行われました。

8月21日（日）の座り込み会場は、福生公園（福生市民会館前）に変更です！

20日、21日は横田基地友好祭のため、通常借りている公園は、地元町内会が使用します。

核廃絶を！原発撤退！軍事基地の撤去を！国民平和行進が西多摩に行く！

7月22日（金）、西多摩は、青梅市役所・羽村市役所・福生市役所を経るコース、瑞穂からのコース、北海道・礼文島からの通し行進者と歩くあきる野コースが福生公園に終結し、昭島・立川に引き継ぎました。（写真は、羽村市内での行進団と、終結集会で挨拶する通し行進者の竹田さん）



沖縄県議会 オスプレイ反対決議 全会一致

7月14日、沖縄県議会が全会一致で垂直離着陸輸送機 MV22 オスプレイの配備に反対する決議を行いました。「オスプレイがいかに危険か」の懸念が党派を超えた県民世論であることを示したものと報道されています。

決議は「世界一危険で欠陥だらけの普天間飛行場への配備を一方向的に押しつけようとする日米両政府のやり方は、県民が強く望む『一日も早い危険性の除去』に逆行し、断じて許されない。県議会は県民の生命、安全、生活環境を守る立場から、普天間飛行場へのオスプレイ配備計画の撤回を強く要請する。」としています。（写真：米海軍 HP より）



米海兵隊が陸自・朝霞駐屯地に初の連絡将校を配置、自衛隊との関係強化へ

2011.7.20 の報道によると、米太平洋軍（司令部ハワイ）当局者は、米海兵隊が陸上自衛隊の朝霞駐屯地（東京都練馬区など）に連絡将校（大佐）1人を常駐させることを明らかにしました。

連絡将校は太平洋軍司令部のキャンプ・スミスから派遣。有事や災害に備えて情報共有を進め日米防衛協力を強化する狙い。日本には約1万4千人の米海兵隊員が駐留しています。

▼住民の被曝と恐ろしい差別…（前号からの続き）だから結婚するのはやめてくれ、といわれたからと。私が何か悪いことしましたか」と書いてあった。この娘さんに何の罪があるのか。

最後に、私自身が大変ショックを受けた話。この話だけはぜひ覚えておいてほしい。

その講演会は夜の集まりで、父母と教職員が半々くらい、およそ300人くらいの人に来ていた。その中には中学生や高校生もいた。原発は、私たち子どもの問題だからと聞きに来ていた。

話が一通り終わった。女の子が泣きながら手を挙げた。「今夜この会場に集まっている大人たちは、大ウソつきのええかっこしばっかりだ。今の大人たち、特にここにいる大人たちは農薬問題、ゴルフ場問題、原発問題、何かと言えば子どもたちのためにと行って、運動するふりばかりしている。私は泊原発のすぐ近くの共和町に住んで、24時間被曝している。原子力発電所の周辺、イギリスのセラフィールドで白血病の子どもが生まれる確率が高いというのは、本を読んで知っている。私も女の子です。年頃になったら結婚もするでしょう。私、子ども生んでも大丈夫なんですか？」と、中学2年の女子は、泣きながら300人の大人たちに聞いた。でも、誰も答えてあげられない。「原発がそんなに大変なものなら、今頃でなくて、なぜ最初に造るときに一生懸命反対してくれなかったのか。たとえ電気がなくなってもいいから、私は原発はいやだ」と。ちょうど、泊原発の2号機が試運転に入った時だった。

「そういう悩みをお母さんや先生に話したことがあるの」と聞いたら、「この会場には先生やお母さんも来ている、でも、話したことはない」と言う。「女の子同志ではいつもその話をしている。結婚もできない、子どもも産めない」って。担任の先生たちも、今の生徒たちがそういう悩みを抱えていることを少しも知らなかったそう。

▼原発がある限り、安心できない…チェルノブイリで大事故が起きて、原発は怖いなーと思ったけど、「原発が止まったら、電気が無くなって困る」と、考える人が多かったのでは。でも、それは国や電力会社が「原発は核の平和利用です」「日本の原発は絶対に事故を起こしません。安全だから安心しなさい」と、大金をかけて宣伝をしている結果だ。本当のことは隠している。

原発は確かに電気を作っている。しかし、私が20年間働いて、この目で見たり、この体で経験したことは、原発は働く人を絶対に被曝させなければ動かないものだということだ。それに、原発を造るときから、地域の人達は賛成だ、反対だと割れて、心をズタズタにされる。出来たら出来たで、被曝させられ、何の罪もないのに差別されて苦しんでいる。

原発は、事故さえ起こさなければいいのか。平和利用なのかと。そうじゃないでしょう。働く人が被曝して死んでいたり、地域の人が苦しんでいる限り、原発は平和利用なんかではないのだ。原発がある限り安心できない。原発は絶対に核の平和利用ではない。

だから、私はお願いしたい。朝、必ず自分のお子さんの顔やお孫さんの顔をしっかりと見てほしいと。果たしてこのまま日本だけが原子力発電所をどんどん造って大丈夫なのかどうか、事故だけでなく、地震で壊れる心配もあって、このままでは本当に取り返しのつかないことが起きてしまうと。これをどうしても知って欲しい。私は、原発の増設は絶対に反対だという信念でやっている。そして稼働している原発も、着実に止めなければならない。

原発がある限り、世界に本当の平和はこないのだから。優しい地球 残そう子どもたちに。

※筆者「平井憲夫さん」について：1997年1月逝去。1級プラント配管技能士、原発事故調査国民会議顧問、原発被曝労働者救済センター代表、北陸電力能登（現・志賀）原発差し止め裁判原告特別補佐人、東北電力女川原発差し止め裁判原告特別補佐人、福島第2原発3号機運転差し止め訴訟原告証人。